2022 年 4 月　第 20 巻 第 4 号

かく語りき－聖人の言葉

水は本質的に下方に流れますが、太陽の光線はその水を空に上昇させることは知っていますね。それと同じように、心は低いものや楽しみの対象に向かう性質ですが、神の恩寵は心をより高い対象に向かわせることができるのです。
…シュリー・サーラダー・デーヴィー

屋根が傷んでいる家が雨漏りするように、真我を瞑想しない心には執着、憎しみ、幻惑が入りこむ。
…お釈迦様

今月の目次

・かく語りき――聖人の言葉
・お知らせ
・2022 年 5 月、6 月の生誕日
・2022 年 4 月逗子例会
「自己努力と神の恩寵」
スワーミー・ディッヴィヤーナターナンダ
・忘れられない物語
・今月の思想

お知らせ
コロナ禍のため、各プログラムへの参加を希望される方はご連絡ください。

今月の予定

2022 年 5 月、6 月の生誕日

5 月の生誕日
シュリー・シャンカラーチャーリヤ
5 月 6 日（金）
お釈迦様
5 月 16 日（月）

ヴィッシュダ・シッダーンタ（Vishuddha Siddhanta）暦では、2022 年 6 月に生誕日はありません。

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定はホームページをご確認ください。
https://www.vedantajp.com/

2022 年 4 月逗子例会
4 月 17 日逗子本館
午後の講義

「自己努力と神の恩寵」
スワーミー・ディッヴィヤーナターナンダ

神の悟りに関して、二つの考え方があります。一つは決意と献身的な努力によって神は悟ることができるという考えで、もう一つは、神の悟りは神の恩寵なしには不可能であると強く断言します。では、これらのうちどちらが本当でしょうか？

今日の講義では、自己努力と神の恩寵とのつながりをみていきます。

自己努力と神の恩寵は互いに相容れないものではなく、むしろ補い合うもので、サポートしあっています。恩寵はしばしば自己努力という形でやってきます。最初は自己努力が絶対に必要だからです。努力なしには世俗的なことすら進歩できませんね。いかなる偉大で価値のあることを成し遂げるためにも、懸命に努力しなければならないのです。霊性の生活においても同じ法則が働いています。バガヴァッド・ギーターの中で、シュリー・クリシュナは自己努力を称賛しています：

ウッダレード　アートマートマーナム　ナートマーナム　アヴァサーダイェート/

アートマイヴァ　ヒャートマノー　バンドゥール　アートマイヴァリプール　アートマナハ//

人は自分の心で自分を向上させ、決して下落させてはいけない。

何故なら、心は自分にとっての親友でもあり、かつまた同時に仇敵でもあるからだ。　(6.5)

心は友か敵か

制御された心、きちんと方向づけられた心は友となりますが、コントロールできていない心は自分の敵になります。心は、神聖で高尚な思いによって栄養を与えられ、識別によって道徳的な生活を送れるように導かれます。このような抑制のきいた心をとおして、私たちは現在の状態から自分自身を向上させることができます。

ホーリー・マザーも言われました。「全ては自分の心にかかっています。心が純粋でなければ何も成し遂げることはできません。求道者はグル、神様、ヴァイシュナヴァのご親切を授かるかもしれませんが、『あるもの』の親切がなければ失敗します」　ある者とは『心』です。　求道者の心は、自分に対して親切であるべきなのです。

皆さん、まず、神の恩寵はすでに私たちの上にあるということを信じることを信じましょう。聖なる恩寵の風は常に吹いているのだから、舟の帆を広げなさい、とシュリー・ラーマクリシュナは言われました。私たちは皆、人間として誕生しましたし、少しばかりの知識への渇望心もあります。また、皆、神様の信者として「神聖な交流」を楽しむこともあります――これらは全て神の恩寵の確かな印です。しかし、これらの好機を活かすかどうかは私たち次第なのです。規則的な霊性の実践、聖典の勉強、永遠なものと一時的なものの識別、道徳的な道に従う、自己を内省することは、私たちが誠実かつ系統的に行うべき実践です。私たちがそのような実践をすればするほど、心はより清らかで穏やかになり、霊的な生活への障害はゆっくりと軽減され、私たちの生活の中で神の意識はより強くなります。

シュリー・ラーマクリシュナの最高の弟子のひとりであるスワーミー・ブラフマーナンダの生涯で起こったある出来事についてお話しします。スワーミー・ブラフマーナンダとスワーミー・スボダーナンダはブリンダーバンで一緒に、非常に厳しい霊的実践と修行生活を送っていたことがあります。そんなある時、二人に会いにやってきたヴィジョイ・クリシュナ・ゴースワミーは、ブラフマーナンダジーが厳しい霊的実践をしているのを見て尋ねました。「あなたのためにシュリー・ラーマクリシュナが全てをしてくださったのではありませんか？　それなのにこれほど厳しい霊的実践をおこなう必要などあるのでしょうか？」

ブラフマーナンダジーは答えました。「はい、その通りです。私は、シュリー・ラーマクリシュナが注いでくださった恩寵を保持するために、これらのすべてのことをしているのです」

シュリー・ラーマクリシュナは何度も真珠貝の例を使われました。その貝は殻を大きく広げて海面に浮かび、スワティ星の一滴（雨）を待っています。雨が一粒落ちて来た時、真珠貝はそれを飲み込み、真珠ができるまで海底の奥深くに沈みます。同じように、私たちが神の恩寵を受け取ると、そのとき誠実に霊的実践を行うことによって、深く潜らなければなりません。時がくれば、神の悟りという真珠を経験することができるでしょう。主キリストは言われました「求めなさい。そうすれ

ば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」（マタイ 7.7）

では、自己努力の必要性とは何でしょうか？　霊的実践は不純さを取り除き、心を純粋で一点集中できるようにします。神は私たちのハートの中にお住まいです。しかし、欲望と執着から生じた不純さが、神を覆い隠しています。不純さが取り除かれれば、神はご自身の栄光の中に輝くでしょう。

恩寵は必要か

恩寵という言葉を辞書で引くと、「身に余る神のご好意」、「霊的に生まれ変わらせる、影響力の強化」と定義されています。ここには二つの存在が関わっています。それは、全能で常に慈悲深い神と、弱くて制限に縛られている霊性の求道者です。シュリー・ラーマクリシュナはよくおっしゃいました。「マーヤーは神ご自身よりも強力なようだ」　　ではマーヤーとは何でしょうか？　それは、実在のように見えるが実際は実在でない何かです。この世の非実在のものは、あらゆる瞬間に私たちを魅了します。それでも、それらは一時的なものにすぎず、これら名前と形すべての背後にあるのはブラフマンだけである、ということを言ったり考えたりすることはよくあります。依然として、ブラフマンはまだ私たちのはるか遠くにあるにもかかわらずです。これがマーヤーです。マーヤーから自由になるためには、私たちは神に委ねなければなりません。バガヴァッド・ギーターの中に美しい詩節があります。

ダイヴィー　ヒ　エーシャー　グナマイー　ママ　マーヤー　ドゥラッテャヤー／
マーム　エーヴァ　イェー　プラパッデャンテー　マーヤーム　エーターン　タランティ　テー//

世の人々が、これら三性質から成る私の幻象に、惑わされずにいることは非常に難しい。
だが私にすべてを委ねて帰依する人は、容易（やすやす）とその危険を乗り越えられるであろう。（7.14）

さらに、私たちは数えきれないほど何度も、時には人間の身体となって、また時には動物の身体となって転生してきました。そして、過去生から蓄えられたすべての思考や感情は、潜在意識に種子の形となって蓄積しています。それをサムスカーラというのです。その結果、私たちが神に近づこうとするとき、世俗的なサムスカーラが私たちを後ろから引きずります。ですので、自己努力だけではなく神の恩寵が必要なのです。

ある人がホーリー・マザーに、神は

ジャパやさまざまな霊性の修行で悟ることができますか、と尋ねました。ホーリー・マザーは答えました。「できません。神は神の恩寵によってのみ悟ることができるのです」　それでも私たちの心から不純さを取り除くために、霊性の実践は必要です。一生懸命に霊性の実践に励んだ末に、求道者はまだ神ははるかかなたに存在する、と感じます。実際、人はどんな努力をしているときにもエゴ意識は持ち続けています。たとえば「私は瞑想しよう、私の心をコントロールしよう」、などと感じますね。このような考えの間ずっと、自分ですべてのことができる、と感じています。人が最善を尽くし、それでもまだ神を悟ることができないときにのみ、人は自分の努力の限界を理解します。その時やっと、人は哀れげに神の恩寵を乞い、自分自身を完全に神に委ねます。そしてその時、神の恩寵がその人の上に降り注ぐのです。

農家の人が畑仕事をするとき、種をまき、水をやり、肥料をまくなど、あらゆる努力をします。それでも最終的に雨が降らなければ、作物を手にすることはできません。作物に雨が必要なように、私たちの霊的生活の成功には、神の恩寵が必要です。実際、私たちの霊性の旅路において、神は私たちに少しばかりの霊的実践をさせてくださいます。シュリー・ラーマクリシュナがおっしゃったように、私たちが一歩進むと、神は十歩近づいてきてくださるのです。努力することの中には喜びがあります。

スワーミージーとシャラト・チャンドラ・チャクラバルティの間で、「自己努力と神の恩寵」というテーマの会話がありました。それをここに再現します：

弟子「ですが、シュリー・ラーマクリシュナは、『人が神に祈れば、すべてこれらの執着は恩寵によって消え去る』とおっしゃったのではありませんか？」

スワーミージー「そうです、『神の恩寵によって』ということに疑問の余地はありません。しかし、人はこの恩寵を受け取る前に、まず純粋にならなければなりません。そのときに神の恩寵がその人に降り注ぐのですから」

弟子「しかし、思考、言葉、行いを自己制御できる人に、どんな恩寵が必要なのでしょうか？　そのような人は、霊性の道で自己努力によって自己成長ができるでしょう！」

スワーミージー「神は、悟りを得るためにハートと魂が奮闘している人に対して、とても憐れみ深いです。しかし、何の苦労もせずに怠けてばかりいれば、神の恩寵は決して来ない、とい

うことがあなたにもわかるでしょう」

弟子「善くなりたい、と皆切望していますが、原因は不明ですが心は悪の方に向いてしまいます！　すべての人が神を悟るために善くなりたい、完全になりたいと願っているのではないのでしょうか？」

スワーミージー「善くなりたいと切望している人は、すでに奮闘している人達です。一生懸命努力を続ければ、神は慈悲を与えてくださいます」

恩寵は無条件ではない

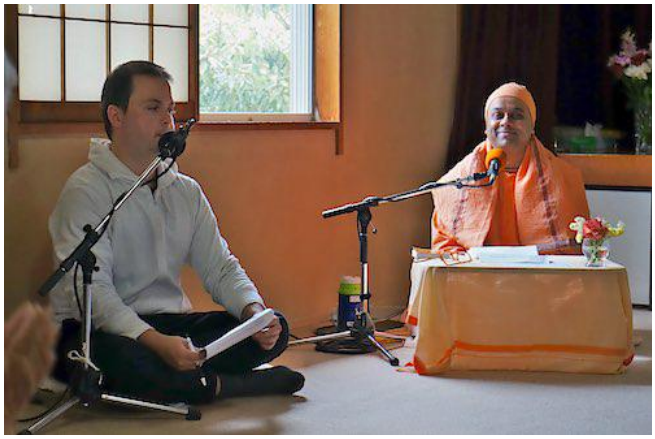
しかし、スワーミージーが言われたように恩寵は無条件では下りません。神の恩寵の潮流の背後には、神聖な法則が働いています。私たちが自己努力をしたからといって、神の恩寵を受ける資格を得るわけではありません。バガヴァッド・ギーターの中で、主はすべての人のハートのうちに座り、人々を機械のように働かせる、と言います。

イーシュヴァラハ　サルヴァ・ブーターナーン　フリッ・デーシェールジュナ　ティシュタティ/
ブラーマヤン　サルヴァ・ブーターニ　ヤントラールーダーニ　マーヤヤー//

アルジュナよ！　至高主（神）は全生物の胸に住み、神秘力（マーヤー）によって彼等を動かしておられる。まさに運転手が車を動かすように。
（18.61）

つまり、集中力、識別、祈り、ジャパなど、私たちが何をするにしても、それらをすべて行わせるのは神です。ですので、自己努力を怠らずに続けて神の恩寵を待つこと、それだけが私たちにできることなのです。

ここまでお話ししてきたことから、私たちは、自己努力と神の恩寵は、はさみの両刃のように霊的生活で成功するにはどちらも必要であることが、十分に分かったはずです。両者の間に矛盾はありません。粘り強く努力し続けましょう。究極的には、神の恩寵こそが、私たちの人生の舟を永遠の平安、歓喜、自由の対岸へと連れて行くのです。



月例会
日本ヴェーダーンタ協会　逗子本部
2022 年 4 月 17 日　逗子本館にて

プログラム

本館

10：30　供物奉献

　　聖句詠唱、瞑想

12：30　昼食

午後の部

14：00　　聖句詠唱　輪読

講義：「自己努力と神の恩寵」
スワーミー・ディッヴィヤーナターナンダジー
通訳者：レオナルド・アルヴァレスさん
賛歌
16：00　ティータイム
18：30　夕拝
瞑想

忘れられない物語

シュリー・シャンカラーチャーリヤ、新弟子を受け入れる

9 世紀初頭、アディ・シャンカラーチャーリヤが数人の弟子とインド南部を遍歴していたとき、たまたまシュリー・バリ（現在のインドのウドゥピ近郊のシヴァッリ）という村を通った。その村にはプラバカラという敬虔で博学なブラーミンがいた。プラバカラには感じの良い天使のような顔をした 13 歳の息子がいたのだが、少年の行動は周りの人々にはかなり奇妙に映った。13 歳の少年は、これまで一度も言葉を発したことがなかった。それで人々は少年をただの馬鹿だと思っていたのだ。

プラバカラ（少年の父親）は、アディ・シャンカラが自分の村を訪れること聞くと、主シャンカラのもとへ行き、自分の家に来てかわいそうな子供を祝福してくださいと頼んだ。主シャンカラがそのブラーミンの家を訪れると、子供は静かに外で座っているのが見えた。少年はこの真の聖者に気づくと、聖者の御足元にひれ伏した。

主シャンカラは、その子が高い霊性をもった魂であることが分かったので少年に尋ねた。「わが子よ！　なぜ話さないのか？」

周囲が驚いたことに、少年は「何を話すのですか？」と答えた。「言葉をとおして神様のことを理解することはできないのですから、話すことは無意味です」

「述べよ、あなたは誰であるか？」主シャンカラは、その子の偉大さを皆に知らせるつもりで問いかけた。少年は直接答える代わりに、「真我」の本性に関するヴェーダーンタの教えを要約した 12 のサンスクリット語の詩節を作り、アディ・シャンカラの質問の答えとした。主シャンカラは両親の同意を得て少年を弟子にした。そして弟子のひとりとなったプラバカラの息子と共に次の村に歩いて行った。

後にアディ・シャンカラは 4 つの僧院を設立し、『ハスタマラカ』と名付けられたあの時の少年をドワラカ僧院の僧院長にした。さらにハスタマラカは幅広く霊的なテーマについて執筆し、グル・シャンカラはハスタマラカのいく

つかの著作の注釈を書いた。

- Aumamen.com より

今月の思想

人の意志と神の恩寵との関係は、馬と
騎手の関係のようなものです。
…聖アウグスティヌス

発行：日本ヴェーダーンタ協会
249-0001　神奈川県逗子市久木 4-18-1
Tel: 046-873-0428
Fax: 046-873-0592
Website: http://www.vedanta.jp
Email: info@vedanta.jp